



ミヤマシロチョウの生態

幼虫の誕生

ミヤマシロチョウは、7月下旬から8月上旬にかけて食餌植物であるヒロハヘビノボラスやメギの葉に、卵を一か所100程度産み付けます。産卵から約2週間後、一斉に孵化が始まります。外に出た幼虫は、葉に吐糸をしながら簡単な共同巣を作り、群れで摂食を始めます。

巣作りと越冬

9月下旬から10月上旬頃、幼虫の群れは越冬用の巣作りを始めます。初めの巣に食べ散らかした葉を壁の補強材にしたりしながら補修を重ね、大きな共同の巣（写真①）を作ります。越冬に入ると、巣の入り口を吐糸で閉じ、冬を越します。

蛹化と羽化

冬を越すと、再び群れでの行動を再開します。盛んな食欲による摂食と脱皮で体毛がふさふさと



した立派な毛虫（写真②）へ成長します。6月に入ると突然巣離れし、蛹化の場所を探して歩き始めます。蛹化の場所を見つけると吐糸で足場を固め、胸部を固める帯を作って蛹（写真③）へ変化を始めます。蛹化から約3週間ほど経つと、蛹の背面が割れ、開始から約30分ほどで羽化が完了します。

特異な生態

ミヤマシロチョウは他の蝶と比較して、特異な生態が見られます。その一つは前述した幼虫の集団行動です。全幼虫期を通して集団行動をしながら生活する様子は他の蝶にはほとんど見られません。また、成虫になってからも集団での行動が見られます。雄蝶は湿った場所や溪流のほとり等に集まり、集団で給水（写真④）を行います。

特集 ミヤマシロチョウ

～長野県の天然記念物に指定される白く可憐な蝶～

長野県の天然記念物に指定（昭和50年2月24日指定）されているミヤマシロチョウ。1901年に諏訪清陵高等学校の初代校長である千野光茂が八ヶ岳で発見しました。標高1,500mから2,000mにかけて生息する高山蝶の一種で、翅全体が白色で翅脈（昆虫類の翅に見られる脈）に沿って黒い線が入った翅と、翅の付け根に直径2mmほどの橙黄色の斑が見られるのが特徴の蝶です。

属名はAporiaといい、ラテン語で「行き詰まり」の意。また、種名のhippiaは「女神」の意を持つとされています。

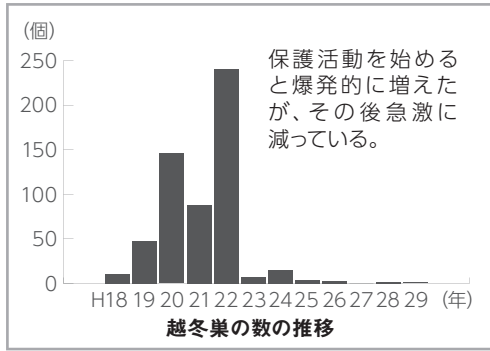
この蝶は、八ヶ岳南部や奥秩父、野辺山、美ヶ原、南アルプス、大井川上流、入笠山、浅間山系等の長野県を中心としたごく限られた地域に生息し、村内でも姿が見られます。

今回は、この白い蝶をご紹介します。



- ①越冬巣
- ②集団で行動する幼虫
- ③蛹
- ④集団給水する雄蝶

参考：理科研究集録「ミヤマシロチョウ」 編集・発行（「ミヤマシロチョウ」編集委員会・1982年）
信州の自然誌「高原チョウ」 著者・発行（堀 勝彦・1993年）



八ヶ岳・原村ミヤマシロチョウの会では、ミヤマシロチョウの観察会を実施していました。しかし、個体数の減少により平成26年以降は開催できなくなりました。

厳しい状況

「八ヶ岳・原村ミヤマシロチョウの会」会長の山本勝之さんは村内のミヤマシロチョウの今後の生息について「厳しい」と話します。

ミヤマシロチョウは、かつてはペンション区や農場区でもよく見られました。しかし、十数年前頃から急に姿が見られなくなつたといひます。この時、山本さんは危機感を覚え、会を立ち上げ保護活動に乗り出しました。

保護活動を始めるとすぐに生息数が増えました。しかし、すぐに数は

減り、現在では辛うじて消滅を免れている状況だといひます。昆虫の個体数は波のようで、爆発的に増えればその逆もあると山本さんは話します。

減少の原因は

山本さんはミヤマシロチョウの個体数の減少について、生育環境の減少によるメタ個体群の崩壊が原因だと話します。

ミヤマシロチョウには幼虫の食餌植物や成虫の吸蜜のための花、そして、明るい草原のような環境が必要です。

かつて、八ヶ岳で林業が盛んな頃は、間伐後の開けた土地が蝶にとつて住みよい環境でした。しかし、林業が廃れ、伐採

八ヶ岳・原村ミヤマシロチョウの会 会長 山本 勝之 さん

小さいころから蝶が好きで、10歳のころには蝶を追いかけて、採取データをノートへ記録、出身校の東京農業大学では昆虫学の研究をしていました。

平成20年にミヤマシロチョウの調査や保護活動を行う「八ヶ岳・原村ミヤマシロチョウの会」を発足し、保護活動を行っています。

会が行う保護活動

八ヶ岳・原村ミヤマシロチョウの会では、越冬巣や幼虫、成虫の個体数の調査や蝶の密猟のパトロール、幼虫保護のための袋かけ作業、樹木の間伐・伐採作業等を行い、ミヤマシロチョウの保護を行っています。



生息適地の生成が行われなことから、メタ個体群の崩壊が起こり、蝶は消滅に向かつています。

減少を止めるには

山本さんは、減少を食い止めるには生息地域の拡大が必要だと話します。しかし、それはとても難しいことだといひます。

生息地域の拡大には蝶が好む環境を広く作る必要があります。しかし、保安林では法によって木の伐採が困難であったり、民地では合意が必要であったりと、生息地域を広く確保することは大変困難です。

このような状況の中、山本さんは、「保護活動で現状を維持することしかできない、それも厳しくなっている」と嘆きます。

終わりに

村では、おいしい高原野菜やきれいな星空等、豊かな自然を売りにしてきました。この自然の中に長野県を中心にしか生息しない絶滅の危機にある白い可憐な蝶のことが含まれていたでしようか。この蝶が村内からの消滅の縁に立っている今、村全体で考える必要があるのではないでしようか。



消える ミヤマシロチョウと 保護活動

ミヤマシロチョウは、環境省及び長野県のレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）に名を連ね、絶滅危惧ⅠB類に指定されています。これは、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いものにあたります。

各生息地域からは年々その姿が見られなくなっており、隣の茅野市では、生息地とされる地点で2016年から1匹も姿が見られなくなつたと

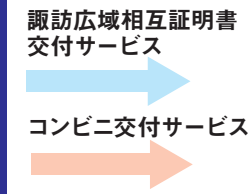
昨年報道がされました。このような状況は当村も同様で、かつては容易に村内で目にする事ができたミヤマシロチョウは年々減少し、今日ではその姿をほとんど見る事ができなくなりました。

現在、「八ヶ岳・原村ミヤマシロチョウの会」のみなさんの保護活動によって、かろうじて村内からの消滅を免れています。

来年 3月 から 各種証明書の コンビニ交付サービスが はじまります

平成31年3月1日（金）から各種証明書のコンビニ交付サービスが始まります。
これに伴い、諏訪広域相互証明書交付サービスは3月末で終了します。

諏訪広域相互証明書交付サービスは、諏訪地域6市町村内に住所・本籍がある方が、
諏訪地域6市町村のどこの窓口でも各種証明書を取得できるサービスです。



※軽自動車税の納税証明書について

平成31年4月1日以降は、軽自動車の登録がある市町村でのみ
交付申請をすることになります。今年度交付した『軽自動車税
納税証明書』の有効期限は、平成31年5月30日です。有効期限
までに車検があり、納税証明書をお持ちでない方はお早めに
取得をお願いします。

納税証明書は大切に保管してください



コンビニ交付申請方法は随時掲載して
いきます。

問 住民財務課 住民係 ☎79-7927（直通） または 住民財務課 税務係 ☎79-7923（直通）

電話で聞けます！

有線放送が



※通話時間は最大30分間です。
※区内放送を除く全ての放送がお聞きいただけます。
（区内放送はお聞きいただくことができません。）

放送の聞き方 一電話を掛けるだけで、簡単に放送を聞くことができます—

- ☎0800-800-6299（通話料無料）へ電話をかける。
- 最新の放送から順に過去の放送（20回分）が流れます。

便利な機能をご利用ください

通話中にダイヤル操作をすることで過去の放送へ進むことや、再生
速度の調整など、様々な機能が使
えます。
操作方法は簡単で、# ボタンを押
した後に使いたい機能の番号のボ
タンを押してください。



① # ボタンを押す



② 利用したい機能の数字ボタンを押す

0	最新の放送を聞く
1	新しい放送へ進む
2	聞いている放送をもう一度聞く
3	過去の放送へ進む
7	再生速度を遅くする
8	再生速度を等倍にする
9	再生速度を速くする

問 総務課 総務係 ☎79-2111（内線233）